

秋水通信

第34号

2023.4.15

幸徳秋水を顕彰する会
〒787-0010 四万十市古津賀4-41
四万十市生涯学習課内

ホームページ
<http://www.shuusui.com/>
090-6827-9129 (田中全)
メール:zen-tanaka@heart.ocn.ne.jp

第五回大逆事件サミット(神戸大会)に参加を

全国連絡会議事務局 山泉 進

「大逆事件サミット」は「大逆事件の犠牲者たちの人権回復を求める全国連絡会議」というのが正式名称ですが、二〇一一年の「大逆事件百年」を契機にして、それまで重ねられてきた各地域や団体における「大逆事件」の被告たちの顕彰活動の全国的な交流の場として設置されました。事務局は坂本清馬の再審請求の支援組織であった「大逆事件の真実をあきらかする会」が担っています。

そのアイディアは、長年にわたり再審請求の支援活動と幸徳秋水の顕彰活動に携わってきた四万十市の故森岡邦廣さんや故北澤保さんたちとの話し合いのなかで生まれました。そして二〇一〇年に結成された「幸徳秋水刑死百周年記念事業実行委員会」(委員長・田中全四万十市長)の活動として実現しました。

もちろん第一回の「大逆事件サミット」は秋水の故郷であり、再審請求に人生をかけた坂本清馬の居住の地でもあった高知県四万十市中村において、二〇一一年九月二四日に開催されました。

続く第二回サミットは二〇一四年、堺利彦の郷里、福岡県みやこ町で、第三回は二〇一六年、大阪市の天満教会で、第四回は二〇一八年、和歌山県新宮市でと続きました。(詳しくは二ページを)しかし、二〇二〇年一〇月に予定していた神戸市での第五回はコロナ感染拡大のため止む無く延期。神戸は高知市出身

の事件犠牲者、岡林寅松と小松丑治の活動の場でありました。この間に神戸では、着々と受け入れ態勢を整備し、飛田雄一、稲村知、津野公男さんを共同代表者として「大逆事件を明らかにする兵庫の会」を立ち上げ、各地の顕彰活動との交流を重ねてきました。

いよいよ五年ぶりの「大逆事件サミット」が五月二七日(土)に決まりました。準備は整いつつあります。全国各地から多くの参加者が集うことを期待しています。「五月二七日、神戸で！」お会いしましょう。

第五回大逆事件サミット(神戸大会)

日時 五月二七日(土) 午後一時
場所 兵庫県学校厚生会館(元町駅近く)
神戸市中央区北長狭通四一七―三四
内容 講演一 山泉進 大逆事件の真実
講演二 上山慧 神戸の大逆事件犠牲者 岡林寅松・小松丑治
参加費 一千元
全国交流会
二八日は岡林寅松、小松丑治の足跡を訪ねます。

問合せ 大逆事件を明らかにする兵庫の会
津野公男

090・2490・1879
kimioama@yahoo.co.jp

追悼 幸徳正夫さん 駒太郎のひ孫

幸徳正夫さんが二月二日、病気で亡くなられた。八十歳。

幸徳家(俵屋)の跡取りであった秋水が東京へ出た後、幸徳家を継いだのは番頭から幸徳家の養子になった駒太郎。駒太郎は実直、誠実、商売熱心で幸徳家をよく支えた。駒太郎の後は長男富治であるが、駒太郎は富治の姉の明(あき)にも婿養子(武次郎)をとり、幸徳姓を残した。(四ページに詳しく書いています)

幸徳武次郎、明の夫婦は俵屋の酒造部門の支店(幸徳酒造)を武次郎の生家のある入野村に出した。二人の次男の正三は戦後中村、次に高知市へ出て簿記学校や会計事務所を開いた。正夫さんは昭和十七年中村へ、中学、高校は高知市で中央大商学部に進んだ。

大学を出た後はデパート勤務を経て父と同じ道へ。税理士資格を取り東京都葛飾区に幸徳正夫税理士事務所を開いた。正夫さんの人生訓は「二期一会」。人との出会いを大切に、積極的に地域活動や講演活動をおこない幅広い人脈を築いた。税務関係の図書、テキストを多く執筆し、東京税理士会葛飾支部長にもなった。三月一日、二日に挙行された通夜、告別式にはその活動の広さを示すように大勢の参列者があった。

正夫さんは幸徳秋水の顕彰運動にも積極的にかかわり、東京の大逆事件の真実をあきらかにする会の集いや、中村の秋水墓前祭にもほぼ毎年参加。幸徳家から



非戦の碑除幕式
2021.11.3

の参加は運動に厚みをもたらし、正夫さんは運動のシンボリック的存在であった。二〇一一年一月二四日、秋水刑死百周年記念事業の特別講演(四万十市役所会議室)では「すべての縁に生かされて」と題して話をされた。

本通信前号に書いたように二〇一六年、「秋水の孫、一〇五年目の墓参」にも立ち会ってくださった。

二〇二一年、秋水生誕百五十年を記念する非戦の碑の除幕式では幸徳家を代表してお礼の言葉を述べていただいた。その時の言葉は「人は二度死ぬという。その人の記憶が失われた時が二度目だ」。生まれてこのかた、幸徳を名乗っていないこと、いやな思いをしたことは一度もないというのが正夫さんの口癖だった。幸徳家への愛と誇り。正夫さんの名前は秋水や駒太郎、富治、武次郎とともに、「自由・平等・博愛」の記憶の中に永遠に刻まれることになるであろう。

正夫さん、ありがとうございました。
(田中全)

幸徳秋水刑死二二二年記念墓前祭

例年通り一月二四日午後0時半から正福寺墓地で開催。みぞれ交じりの小雨で震える中、約五十人参加。県外からは東京、神奈川、千葉から各一名。

顕彰会宮本博行会長が追悼の言葉を述べた後、順次白菊を献花。幸徳家縁者(木戸、田中)、四万十市長、議長、教育長(代理)、商工会議所専務、観光協会事務局長、中村九条の会、自由民権友の会、正福寺住職、東京からのアナキズム誌編集長黒薔薇アリザさんと高知市の学芸員森本琢磨さんがスピーチ。

二時からは文化センター会議室で記念講演会。田中全「幸徳家を継いだ人たち 駒太郎 富治 武次郎」。要約を四ページに掲載。

大逆事件サミットの歴史

第一回 高知県中村（四万十市）

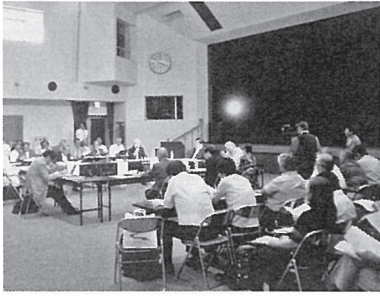
二〇一一年九月二四日

幸徳秋水刑死百周年記念事業（事務局は四万十市教育委員会）の一つとして同実行委員会と幸徳秋水を顕彰する会で共催。会場は市立公民館大ホール。約百人参加。福岡県みやこ町（旧豊津町）の井上幸春町長も参加。

市長（田中全）の開会挨拶のあと、山泉進氏の司会で全国からの以下の九団体代表が活動報告。

真宗大谷派、大逆事件の真実をあきらかにする会（東京）、「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会（新宮）、森近運平を語る会（岡山）、大逆事件再審検討会、国際啄木学会、熊本近代史研究会、幸徳秋水を顕彰する会、堺利彦・葉山嘉樹・鶴田知也の三人の偉業を顕彰する会（みやこ町）。

「中村宣言」を採択。「大逆事件は第二世紀を迎える。この時にあたり、私たちは幸徳秋水の生誕地である四万十市に集い、全国各地において展開されてきた犠牲者たちの名誉回復と顕彰運動の成果を継承し、新しい世紀の人権回復の運動を築きあげてゆくことを確認したい」と謳った。



四万十市立中央公民館

第二回 福岡県豊津（みやこ町）

二〇一四年十月十二日

豊津は秋水の盟友、堺利彦のふるさとで、主催は堺利彦・葉山嘉樹・鶴田知也の偉業を顕彰する会。

台風接近で雲行きが怪しい朝、行橋駅前に集合、午前中はフィールドワーク（史跡めぐり）。私塾水哉園、記念碑、墓など。豊津は松室到、安広伴一郎、末松謙澄など、大逆事件を仕組んだ側の人物も生んでいる。

午後から豊津福祉センターホールで全国十二団体が報告。新たに加わったのは、管野須賀子を顕彰し名誉回復を求める会（大阪）、信州明科事件を語り継ぐ会、京都丹波岩崎草也研究会、平出修研究会（東京）。井上町長も挨拶。約百人参加。

「豊津宣言」では「堺利彦は赤旗事件での出獄後、妻の為子とともに、獄中の被告や家族たちとの連絡と救済にあたり、獄中書簡を「大逆帖」として残し、また一九一一年三月末から、岩崎草也の援助のもとに、三九日間にわたる被告遺家族を慰問する旅へと出かけた。さらには、エマ・ゴールドマンたち、外国同志からの支援の窓口となり、国際連帯の輪を広げた」と発した。



豊津福祉センター

第三回 大阪市

二〇一六年一〇月二二日

大阪は明治一四年、管野須賀子が生まれた地（北区絹笠町）。主催は二〇一三年三月に結成されて間もない管野須賀子を顕彰し名誉回復を求める会。会場は須賀子がキリスト教の洗礼を受けた天満教会。全国から一六団体、約一四〇人が参加。埼玉からは幸徳秋水の血を引くひ孫の小谷美紀さんも参加した。

メイン企画はシンポジウム「管野須賀子と大逆事件」。三人が報告。荒木伝（社会運動史研究）「明治期大阪の社会運動と管野須賀子」、井口智子（松原教会牧師）「クリスチャンとしての管野須賀子」、田中伸尚（ルポライター、元朝日記者）「飾らず、偽らず、欺かず」。司会は山泉進氏。各団体からの報告もあった。「大阪宣言」を採択。翌日は希望者でフィールドワーク。阿倍野霊園の中にある三浦安太郎（三浦家）の墓へ。そばに五代友厚墓もあった。次に須賀子が作家宇田川文海の弟子だったころの住居跡へ。住吉大社のすぐ隣なので、ついでにガイドに大社内も案内してもらった。新宮からバスで参加組は帰途、寝屋川霊園の中の武田九平の墓にも立ち寄った（他団体の数名も同行）。



天満教会

第四回 和歌山県新宮市

二〇一八年一〇月六日

熊野地域は大逆事件の犠牲者を全国で最も多い六人出した地。主催は地元「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会。市立福祉センターにはホール一杯の約二五〇人が集まった。大半は市民で、同年一月、大石誠之助が名誉市民に決定したことで盛り上がりがあった。

山泉進氏の司会で開会后、地元フォークグループ「わがらうず」が事件をとりあげた「風の記憶」を歌って歓迎してくれた。基調講演は伊藤和則（国際啄木学会理事）「石川啄木と大逆事件」。

続いて、辻本雄一佐藤春夫記念館長と上田勝之新宮市議会議員から大石誠之助の名誉市民決定に至る経過報告があった。各団体からも活動報告。「新宮宣言」を採択。夜の交流会には田岡市長も参加。

翌日は事件犠牲者六人の顕彰碑「志を継ぐ」の隣に、新たに大石名誉市民決定とサミットを記念する木柱「自由・平等・博愛」を建立・除幕し、記念撮影。続いて市営南谷墓地の三名の墓（大石、高木顕明、峯尾節堂）を弔い、同年オープンした「熊野・新宮大逆事件資料室」も見学した。



「志を継ぐ」碑に並んで「自由・平等・博愛」の記念木柱を建立・除幕

神戸の大逆事件

高知市出身

岡林寅松

小松丑治が連座

菅野須賀子を顕彰し名誉回復を求める会事務局長 上山

慧

二人の生い立ち
大逆事件に連座した神戸の岡林寅松と小松丑治は同年生まれでともに高知市の出身である。(二人は死刑判決の翌日無期懲役に減刑)

岡林は一八七六(明治九)年一月三日に父・長太郎、母・茂登の長男として高知市鷹匠町四〇番屋敷で生まれた。高知師範附属高等小学校を卒業後、高知市北奉公人町の中井弁護士宅で書生をしていたが、医師としての勉強をするため、市内本丁筋の倉知病院の書生となった。その後、医師になるため、京都に出て、一八九九(明治三二)年一月、大阪で行われた医術開業前期試験に独学で合格した。前期試験は物理学・化学・解剖学・生理学の四科目であり基礎的なものである。後期試験は外科学・内科学・薬物学・眼科学・産科学・臨床実験の六科目で、学校・病院などで一年半以上修学しないと受験ができないことになっていた。一九〇二(明治三五)年一月、小松の世話で神戸市夢野村の神戸海民病院(海員と船客の疾病者を収容することを目的として設立された病院)の本院に就職し、事務をとるかたわら病理学・診断学・内科学・外科学・産科学・眼科学・薬物学を学んでいる。日露戦争が開戦する前、京都に住んでいたころ、『萬朝報』に掲載された幸徳秋水と堺利彦の非戦論に共鳴し、社会主義に関心を抱くようになった。



岡林寅松



小松丑治

高知市帯屋町四一番屋敷で生まれた。岡林と同じ高知師範附属高等小学校四年を卒業したのち、一七歳で大阪に出て区役所・小学校雇・郵便局員などの仕事をした。郵便局員時代に官印盗用・官文書偽造行使詐欺取財の容疑で重禁錮一年、監視六ヶ月の実刑を受けた。一八九六(明治一九)年に高知へ戻り、市内の武田病院で薬局生をしていたが、前科と肺病で厭世的になったこともあった。一八九八(明治三二)年、神戸へ出て、東川崎町五丁目の神戸海民病院支院の事務員となった。一九〇四(明治三七)年三月一八日には、兵庫区三川口町一丁目六〇番屋敷で小間物屋を営んでいた津田熊吉の長女・はると結婚し、東出町一丁目一六五に居を構えた。東出町と東川崎町は、いずれも労働者街であるため、そこでの生活や海員との接触が小松の思想形成に少なからず影響を及ぼしたと思われる。社会主義に関心を抱くようになったのは、週刊『平民新聞』が創刊された際、友人からその創刊号を見せてもらい、次号から購読するようになってからである。

神戸平民倶楽部

日露戦争のさなかの一九〇四(明治三七)年九月、岡林と小松が中心となり、神戸市の週刊『平民新聞』読者会・社会主義研究会の「神戸平民倶楽部」を結成した。それ以降、「神戸平民倶楽部」では、社会主義に関する研究や討議を目的とした例会を、当番となった会員宅を会場に

して、毎月第二土曜日(一九〇七年六月からは毎月第二・第四土曜日)に開いている。倶楽部員について、大逆事件時の岡林の第一回予審調書によれば、岡林と小松以外では、井上秀天・中村浅吉・永井実・林謙・北川龍太郎がよく例会に出ていたとしている。小松丑治の聴取書にはこれらの人びとにキリスト教伝道師の藤野某と宇野某の名前が加わっている(『森長訴訟記録』Ⅳ 森長英三郎所蔵)。

写(下)『世界文庫一九六四年』と返事のはがきを寄せている。

仮出獄後の二人

一九三一(昭和六)年四月二九日の天長節の日、岡林と小松はともに仮出獄を許された。岡林は仮出獄した直後に『高知新聞』の「黒眉生」という記者の取材を受けており、その記事が「幸徳秋水大逆事件の同志 岡林寅松と語る」として同紙で全一回にわたって連載されている。その後、大阪に出て、弁護士で社会大衆党の代議士でもあった田万清臣が、大阪市内で経営していた大衆病院に堺利彦の紹介で勤務することになった。そして病院勤務のかたわら、中之島公会堂で開かれた第二七回日本エスペラント大会にも参加している。一九四五(昭和二〇)年三月一四日の大阪大空襲により、病院が焼失したため、妹・晃恵の嫁ぎ先である高知市春野町の松本喜義のもとに身を寄せた。終戦後の一九四七(昭和二二)年二月二四日、日本国憲法公布の特赦により、刑の効力が失われるという形で復権し、翌一九四八(昭和二三)年九月一日に満七二歳で亡くなった。

同年一月二四日、「神戸平民倶楽部」は元町六丁目にあった元六倶楽部で「第一回社会主義講演会」を開いた。大阪から森近運平・武田九平・荒畑寒村が出席したのをはじめ、和歌山県新宮からも大石誠之助が出席し、それぞれ講演している。神戸からは、岡林が開会の辞として「神戸平民倶楽部の歴史」を述べ、井上秀天も「宗教と社会主義」について講演している(『日本平民新聞』第一三三号 一九〇七年一月二五日)。

一方の小松も、神戸の妻・はるのもとへ帰ったときに『大阪朝日新聞』の取材を受けており、一九三一(昭和六)年五月五日の同紙夕刊が「幸徳事件の無期囚出獄 廿年振に妻と再会 孤独と貞操を守り通した半生 流す涙も忘れる歓び」という見出しで、終始小松夫妻に同情的で、美談記事として報じている。仮出獄後の小松は、特高警察から監視される生活を送り、一九四三(昭和一八)年ごろ、京都・伏見の親族宅へ転居したが、一九四五(昭和二〇)年一月四日、栄養失調により満六九歳で亡くなった。

一九〇八(明治四一)年末ごろには、岡林は、小松丑治・井上秀天・中村浅吉と相談のうえ、幸徳翻訳の秘密出版『麵包の略取』を四部申し込んでおり、幸徳に「予約メ切(一九〇九年一月一五日)後に送金しても差支えないか」と問い合わせている(『岡林寅松第二回聴取書』森長英三郎所蔵、神崎清『革命伝説 大逆事件』② 密造された爆裂弾 子どもの未来社二〇一〇年復刻)。これに対して、幸徳は岡林に「御無沙汰致候、御端書及新聞多謝、獄中及在京の同志いづれも健在に候、例之件は来月に成ても宜敷候間一部でも多く御周旋願候」(大逆事件記録 刊行会編『大逆事件記録第二巻 証拠物

岡林と小松の墓はそれぞれ高知市内にあり、二〇一六年に「幸徳秋水を顕彰する会」と「高知市立自由民権記念館友の会」によって、「大逆事件犠牲者岡林寅松の墓」、「大逆事件犠牲者小松丑治の墓」と書かれた墓標が新しく建てられた。

